

◆地域の伝承や研究会の推論も含めたもの。(ご参考まで)
 (山裾からの順路順に下記纏めました。)各自で追加、添削下さい。



★「パンフ神社史跡めぐり」●「ガイドブック」をベースに案内

神社めぐり	該当史跡名前	基本説明:パンフ参照など	追加余話、伝承など ▲は石研の推論
23	家紋石	★姫路藩からの払下げを記念に制作したのでは S43年山から落下し2つに割れた	▲島村の西村先生(医者)の家紋が二つ矢で発案者ではないか? 東村家が鷹の羽紋 
21 22	二の鳥居と灯籠	★灯籠は大阪の石問屋4軒の寄進(井筒屋、堺屋、江戸屋、名田屋)	さらに鷹屋、御影屋が石座としてまとめに入り4軒の間屋は中売になる。 ...鷹屋、御影屋 お前も悪よの~
	正面の階段	169段 傾斜約30~38° 	浮石が自然に滑る落ちる角度は20° スキーのジャンプ台が35° ...この角度を滑る 高梨沙羅さんはすごい
	石畳の坂		秋祭りに屋台を担ぎあげる姿は勇壮です 屋台が約1.5トン、50人で担ぐとして30kg/人の重さ ...中にはぶら下がっている人も
10	能舞台	★H11年に移動(元は30mほど北)秋祭りのお面かけ神事場所	御旅所の神輿(神様)に向かって能舞をする獅子舞の奉納もここで
8	神輿蔵	2基の神輿を収納	当番村の氏子で赤ハチマキは青年、黄色ハチマキは壮年で練り合わせる
9	御旅所	昭和54改築で3代目の御旅所 初代は北池、2代目は生石村にありました	初代は高御位の裾の北池村にあって秋祭り宵宮には志方の成井から神輿が山の頂上へ 生石神社から2基の神輿が山裾の御旅所で向かい合います。また、神吉久太夫が能舞台を寄進したと言われています
	練り場	戦前には東側にお茶屋さんがあり三味線の音が聞こえていました。	神輿蔵の前の岩面は秋祭りの絶好の棧敷席。サバの姿寿司の弁当を持って1日楽しむ。和太鼓演奏もしていますよ。
20	三の鳥居	★「生石子神社」の石額は地誌「峯相記」(1348)平安時代に記載の神社名(読みやすく子の字をいれた?)	江戸時代の著書「播磨鑑」にも「生石子神社」の記載あり、これを見て製作したものか
19	国史跡碑とおんびきガエル	★商売繁盛のおんびきガエル。平成26年10月に国史跡に指定された。	竜山の青石、赤石、黄石を紹介の場所 国史跡は全国でどのくらい? 1846件、兵庫県で48件/2020年
18	石灯籠	★大阪の世話人20数名の寄進(宝栄講の人たち)	大阪の金持ち衆の寄進か。大阪でも竜山石の商売で石の宝殿は有名だった
	コンクリート坂道 昔は石の階段	昭和54年の大工事の際にコンクリート坂になった。(それまでは立派な石の階段でした)	54年は本社の屋根も銅葺にするなど大工事を行った。茶店も鳥居のすぐ上にありました(昔の写真参照)
17	姫様の歌碑と腰掛岩	★島津の姫様12才(7才?) 岩に腰を掛け歌を詠む	け まにきて...)江戸時代は参勤交代の時に立ち寄るほど有名でした。 殿様の奉納金は12~15万円程度

	【神社縁起】 (説明看板)	二神が一夜のうちに建てようとしたが…… 万葉集の「大汝、小彦名…」静の窟屋は島根県ではないかと(本居宣長)	◆江戸時代の初め万葉集が広まり 大汝、小彦名の静の窟屋を言い出したのは誰か？ 「神社啓蒙」(1670)に2神の記載 現在は江戸の後期に発見された「播磨風土記」から物部の守屋説が有力か。
16	大正天皇行幸の記念碑	★裏面の紹介 矢の跡あり 天皇は山裾の鳥居から登られた	陸軍の演習は日岡？▲宝殿駅からの一本道が出来たのもこのころ
	昔の村の戸数	宝殿駅から神社までの一本道の両側はかつては田んぼばかりでした	明治の末 →昭和60年 →平成30年 島村 98戸 → 674戸 → 1155戸 生石村 40戸 → 71戸 → 148戸
4	絵馬堂	★算額の紹介(レプリカ) 本物は本社中央の上部です。	絵馬堂の床板は 昔は階段部はなかった。
3	詰所	★江戸時代の末期に建てられたもの	秋祭りには北側の部屋に神輿を2基並べて礼拝します
6	参集殿	★平成元年に拡大、建設 2階の大広間で秋祭りの打ち合わせや直会が行われます	拡張のため西側の岩場を大きく削りました また、最近1階を案内所として活用を始めました
2	【本社】 (本殿、拝殿とも) 	★割拝殿形式 ●平安の後期に建立 その後2回焼失した。秀吉、落雷	神吉城落城の2年後、秀吉播磨制定の時に神社が反抗したため燃やされてしまいました。 ▲神爪の棟梁;平蔵か(柳兵太夫か)が再建したようです 屋根の才の木は男神(女神は頂部が水平)
	神吉久太夫の石の灯籠(詰所北)	神爪に一の鳥居を建てた神吉久太夫貞信の寄進	久太夫は姫路の殿様に無礼を働いた人物…謎の人物・魚橋村の大金持ち？/調査中
	西邑久兵衛他の石灯籠(拝殿南)	島村の石工さんたちが寄進 さすがに腕の良い、頭も良い人たちの造った灯籠です	灯台であったかも(別紙参照) 龜山の石工さんたちは他所から多くの作業の依頼がありました。(鳥居、石灯籠、石橋etc)
1	【浮石】 	★大きさ 6.4m5.6m×7.4m 重さ 465トン ①年に一度の水抜き 約40m ³ S49年から開始 ②深さ北東のところ;1.6m ③水位が一定;小さな排水管が東側にありいつ頃つけた？ ④南東の頂部を基準に上から掘りこむ。また定尺はなく最大限に寸法どりをした	大ズワリ…下はきれいに割れている 掘り出された岩くずは1500トン…高御位の鯛砂利に捨てたと言われています。 ⑤30°の角度で矢を打ち込み岩を剥いで行く(周囲の岩肌に残る掘跡)北の壁は少しやわらかい ⑥北の水中の岩場は作業用に残したものか。カエルの置物のところ ⑦西の壁に足場用の壇がある
	西側岸壁の2つの祠	「大汝、小彦名…」を祀る。	江戸時代の観光ブームで大汝、小彦名「静の窟屋」が有名になった後に作ったようです
11	霊岩	★浮石製作の基準となった パワースポット;霊気をもらい体の悪いところに押し当てれば…	◆割れ目がちょうど北の方向を指す なぜか？ 
5	末社	★H23年に新しく建てられた	昔の絵図をみると境内にはいろんな建物があつたようです。秀吉に持ち去られた鐘楼はどこにあつたのでしょうか。(昔の絵図参照)

15	大ずわり	★岩が固まる時にできる水平方向の割れが良く見れます	重ねもちの上の岩を掘りこんで浮石が作られたことが良くわかります。下の岩が見れます(コンクリートではありません)
13	【玉垣】 	★昭和4年建立 工場、旅館、医者、議員、地域の名士 合計137本 ▲玉垣が出来るまでは木の垣根ではなかったか	①多木肥料王を主に掘り直す ②稲岡工業は奉天から寄進(中国進出) ③小結酒造は伊藤長次郎が創設 ▲1万円札の渋沢栄一と今市村で一緒に商売をし儲けたか? ④▲由井清太郎は高砂出身者か?大阪「五徳会」で岡山でも鳥居を寄進している。
		(ここで有名人の紹介)	①小林一茶の句「十返りの花行く返りの石室かよ」 ②シーボルトが来たときは本社が焼失しており浮石がよく見え きれいに描けたのでは
12	岩肌の階段	★大きな一枚岩に削りこんで作られた階段	上から掘りこんで浮石は作られた ④南東の頂部を基準…斜面より浮石の角が高い。(大きなこぶ石だった)
	【山頂にて】	★姫路城のほか 案内者は工夫して紹介してください	…山間の松も木が邪魔ですが北池、南池の皆さんのハイキング目印です
		①高御位山の鯛砂利 ②鹿島神社 ③神島(ほうらく島)高御位山と家島の神さんが取り合いをした島	④播磨平野は2度 都になりかけた(平安時代、関東大震災のあと) ⑤正月初詣は賑やか ⑥加古川バイパスはS14年弾丸列車計画の跡地
	【余話】…道中の時間の合間に説明しましょう		
	石の宝殿	①石の宝殿を言い始めたのは姫路の殿様「松平大和守」旅日記(1667年頃)	「引越し大名」1643年生まれ、14才~54才の日記を書いた
	浮石	②浮石と言ったのは貝原益軒? …中に「浮閣」ありて云々	★石工たちは昔から大ズワリの上の石を浮石と呼んでいたとも
	「日本三奇」	橋 南谿(京都のお医者様)の旅日記で 石の宝殿も奇なるものと記述から	▲実際に「日本三奇」と書いたものはなく、橋南谿と交流があったであろう山片蟠桃が知恵だしたのでは? 石の宝殿の紀行文は不明
	静の窟屋 生石村主真人	▲万葉集が広まった江戸時代の初めの頃にできた話か? ①地誌「峯相記」(1348)平安時代は天人が降りてきて作ったと(2神は出てこない) 静の窟屋を言い出したのは誰か?	②「神社啓蒙」(1670)に大汝、小彦名の記載 ③松平直矩(1667年頃の旅日記)に書かれていないか?(調査中) ④貝原益軒が1692年の旅日記に静の窟屋を載している(この頃はすでに2神登場) (注)「播磨鑑」は1762年の編纂
			

◆記載文など要求あればコピー作成します。